

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園グループホーム笑みの里(富士山ユニット)		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果市町村受理日	令和8年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2291200059-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑みの里では、グループホームの本旨である「ご利用者様がこれまで行ってきた生活行為を職員の支援を受け、ご利用者同士が助け合いあいながら、家庭的な雰囲気の中で継続して行うことにより、認知症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担軽減に資する」を全うしながらも、プラスして、「笑顔」・「家族との時間」・「人生支援」をテーマに置き、家族会の定期開催やご家族参加型のイベントを計画実施し、ご利用者様とご家族が過ごせる時間や機会を多く作り、笑みの里とご家族様が共にご利用者様の人生を支援するチームとなって、ご利用者様の笑顔を増やしていくことに力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本で最初の特別養護老人ホームを誕生させた法人の下、職員育成に長じていることに特長があり、その力を下支えとして地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や職員の専門性をいかした地域貢献の取組みをしています。例えば法人が運営する「介護教室」には当事業所管理者が講座を担当するとか、職員もキャラバンメイトの講師として活躍中です。また、事業所がどのような方針で運営に取り組んでいるのかを家族に伝える試みも、本年度から「家族会」としてスタートさせています。実施後、家族からは「担当の〇〇さんへ」というメールが来るようになり、職員との関係性が深まっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤者全員で、「理念」と「行動規範」と「聖書の言葉」を復唱し、共有と実践に繋げています。	「理念」と「行動規範」、聖書の言葉が書かれた日めくりカレンダーが掲示され、朝礼時には全員で読み上げており、意識の継続に結ばれています。そのほかにも職員は、半期で見直しをおこなう自己評価に取り組んでいます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様の状況により、散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたり、食材の買い出しに地域のスーパーに出かけ、知り合いの方へ会ったり、店員さんと顔なじみの関係性ができています。	歩行可能な利用者に限られるものの毎日の食材の買い出しは利用者職員と出かけ、天気のよい日の散歩等で地域の中に溶け込んだ活動があり、御殿場看護学校の実習生受入れも実施しています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとしてキャラバンメイトに参加し講師をしたり、十字の園で実施している介護教室で講師をすることで、地域の方に認知症理解に向けた話などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、活動の報告や事故報告を行いながら、参加者に感想や意見を頂いている。あがった意見などは、職員会議で共有し、日々の活動に反映するよう努めています。	「奇数月開催」とし、メンバーに予定に入れてもらう工夫があります。グループホームでの生活の様子を参加者に知ってもらうために、スライドショーを取入れており、家族と利用者が「映ってるね」と会話する場面も生まれています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問調査時や、市が主催する意見交換会などに参加した時に情報の共有を行い関係性を築き、また市の「見守りネットワーク」へと登録し地域の行方不明者の捜査協力もしている。	同じサービス種別の管理者が集まる「事業所意見交換会」は御殿場市が主催者です。年2回程の開催なもの、入居待機者の課題や認知症カフェの取組といった貴重な情報共有や話し合いの機会を得ています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束の全体研修を通じて、日々行っている行為に対する振り返りを行い、禁止の対象となる行為の共有と理解を行い、「身体拘束ゼロ」に向けた取り組みを行っている。	委員会の定期開催と共に、「身体拘束の基礎知識、身体拘束をした際、職員が負う責任について」「身体拘束廃止フォーラム」「高齢者虐待防止法の知識を深める」「アンガーマネジメントについて」等、研修も適切に実施されています	自ら作成した指針に基づいた取組かの見直し等、各種書面の精査を定期的にも実施することを期待します
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な全体研修の中で、「不適切ケア」に着目し、職員が自分の行為を振り返る機会を持ちながら、小さな虐待も見過ごされないよう職員間で共有、話し合いが持たれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は包括支援センター職員から、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会を行ったこともあったが、ここ数年はそのような研修会の機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は対面だけではなく、電話やメールも活用し、丁寧な説明を行うとともに、不安な点や疑問点はお気軽にお問い合わせいただくようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめな電話やメールなどを活用し、ご家族と利用者に関する情報の共有を行い、ご家族から施設へ口に出して言わずらいこともメールで連絡できる体制にしています。	利用者の意見は、日々の会話から聞きとっており、飾られた絵馬には「東京に帰りたい」といった思いが綴られていました。また、本年度から始めた「家族会」では、「家族も大切にしたい」との思いを伝えることもできました	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞いたり、「提案ノート」を作り、職員からの提案を受付、検討しながら、施設の質の向上に取り組んでいます。	これまでは職員からの意見は「連絡ノート」に記録していましたが、対応が遅くなるとか、提案がそのままになることがあった為、「提案ノート」を別に作成するに及んでいます。ノートを分けたことで、「すぐ対応できる」との効用もありました	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては、職員各々の事情を汲み取り、負担にならないような勤務になるよう配慮している。また給与等に関しては、人事評価制度を導入し、頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格習得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めています。個人の力量を見ながら、必要な研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で本人、家族との面接をして詳細な情報収集を行い、関係サービス事業者からも可能な限り情報を収集し、可能な限り本人、家族の困りごとを解決し、要望などに答えられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で本人、家族との面接をして詳細な情報収集を行い、関係サービス事業者からも可能な限り情報を収集し、可能な限り本人、家族の困りごとを解決し、要望などに答えられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接を通じて、ご本人、ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は生計を共にする家族だと認識し、介護する方、される方という気持ちを持たずに、互いに支えあうという気持ちで、ご利用者と生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とこまめに情報共有しながら、受診の依頼をしたり、オムツを補充していただいたりして家族にも利用者を支える一員になってもらっている。また年に数回家族会を開き、家族同士が困りごとを語り合える場も設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって馴染みの深い関係の方には、積極的に面会に来ていただいたり、一時外出(ご飯を一緒に食べる)などの働きかけも行っている。	イベントへ家族を誘うとき「運営も手伝ってほしい」と伝えていったところ、おむすびを握ってもらうことなどが叶い、関係が深まっています。また「孫の運動会を見たい」という声には、職員が車いすを押して実現となっています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の席次にも配慮し、孤立せず、なおかつ利用者同士が支えあえる、カバーしあえるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移動された方に関しては、定期的に様子を伺いに行きながら、相談員やスタッフと情報交換を行い、協力できることは協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの生活歴を重視しながら、利用者が発した言葉を大切に、可能な限り希望を実現できるように努めている。	入居時のアセスメントは、担当の介護支援専門員からの情報、本人や家族からの聞き取りをおこない、フェイスシートに落とし込んでいます。洗濯物量みといった事柄は速やかに支援に取組み、難しい意向は家族の協力を仰いでいます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用しているサービス提供事業者から、できるかぎり詳細な情報収集を行い、笑みの里へ入所されてからも、可能な限り同じような生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録の中で、医療・特記・気づきの項目があり、利用者をよく観察しながら些細な変化も見逃さずに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と職員とが、職員会議の中で利用者の現状を話し合い、ご家族とも情報共有しながら、支援方法の見直しを行っている。	担当制を敷いています。「利用者情報」として担当職員が一人ひとりの情報を提供することで、「グループ会議」の中で全員分を2か月毎話し合っていて、ワンチームとして検討する場を持ち、介護計画の作成につなげています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を入力し、特記事項や気づきなどを記載するとともに、職員間で連絡ノートを活用し情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方には、外部の訪問マッサージを利用していただいたり、利用者の要望に対し、ご家族にも協力していただき、日々変化するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が毎日交代で地域のスーパーマーケットへ買い物に出かけたり、近所の神社へ徒歩でお参りに出かけたがしながら、心身ともに健やかに安全で豊かな暮らしが実現できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診を基本としつつ、ご家族の協力を得ながら、症状によっては、在宅時からのかかりつけ医にも受診できるよう支援している。	全員が訪問診療を受けています。事前に「往診時検討事項一覧」に個別の状況を記載し、受診における内容は赤字で追記しています。一覧は連絡ノートに糊付けし、職員間で情報共有しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の往診時や突発的な体調不良時には往診看護師と連携を取りアドバイスをもらっています。また母体施設の看護師とも連携を取り、早期の段階で受診などの対応を行うよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医療機関の看護師やMSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能な限り早期で受け入れができるよう柔軟な対応を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した場合の対応を説明し、入所中もご利用者の状態変化に応じて、その都度ご家族に説明を行うとともに、母体施設である特養とも連携を図りながら、利用者の居場所を含めた支援を行っている。	現状は、急変から救急搬送で入院し、そこで亡くなるというケースが多いものの、入居時には「重度化した場合の対応に係る指針」を通じて説明を家族におこなっています。「延命措置に関する意思確認書」については年1回、更新しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に的確な行動をとることができるよう努めている。また運営推進会議の場などで、地域の民生委員さんなどに災害発生時の協力体制依頼を行っている。	防災訓練は5月に火災想定での避難訓練と炊き出し訓練、11月には地震発生後の火災想定で、年2回実施しています。5月の防災訓練時には水消火器での消火訓練と通報訓練も併せておこなっています	BCPIにおける机上訓練の実施を期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に対し、常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないよう、丁寧な言葉かけを行うよう、職員全員が心掛けている。	アンダーマネジメント、尊厳に係るウェブ研修や「虐待の芽のチェックシート」に取り組んでおり、職員が振り返る機会を設けています。また職員とは、「個人情報保護に関する契約書」「退職時ににおける秘密保持誓約書」を交わしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が思いや希望を表に出せるよう関係性を築き、小さなことでも、職員の押し付けにならないよう、利用者が選択できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いはいしていないが、共同生活なのでどうしても利用者個々のペースが優先できない場面もあります。しかしできる限り利用者の希望を聞き、それに沿った生活ができるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、整髪は利用者全員が行うよう支援し、おしゃれに関しても、その方に似合う衣類を自己選択できるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を利用者と一緒に考えたり、調理や片付けもその方の能力に応じて、できることは行って頂き、職員と利用者が一緒に作り上げる食事になるよう支援しています。	食材の刻みもできる人にはやってもらい、包丁を扱える利用者からは「これ切れないね」と言われたこともあります。行事食、調理レクのメニューも豊富で、忘年会の鍋では「お酒が飲みたい」との声からノンアルコール缶を用意しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、職員間で共有するとともに、個々の状況に応じて補助食品などを提供し、不足分を補えるよう支援している。また、可能な限りその方に適した食事形態で召し上がって頂ける様努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事を美味しく安全に召し上がっていただけるよう、食前には口腔体操を行うとともに、歯科医師・歯科衛生士と連携を取り、個々の口腔内の状況に応じた支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、定時で誘導したり、トイレのサインを見逃さないように心がけている。またその方にあったパッドを使用するように、その都度職員間で検討を行っている。	平均介護度2.38でオムツ利用はなく、88歳以上12名、最高齢101歳との数字からは考えにく程、壮健です。トイレはユニットに6箇所あり、「起床時パットに中量の排便あり」というように、排便の状況は「業務日誌」に記録されています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を基本とし、運動や食物繊維も取り入れながら、可能な限り自然排便がもよおせるよう支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全にご希望に沿うことは難しいが、週に2～3回入浴ができるよう支援しています。また便失禁などで汚れた場合は時間外でも入浴したり、入浴拒否がみられた場合などは、時間をずらすなど柔軟な対応を心がけています。	入浴の確認表も職員からの発案で、誰が入っていないかが一目瞭然と把握できる形式に変更されています。また「箱根温泉に行きたい」という声から、「箱根温泉の湯」の入浴剤と看板も用意して、対応した例もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には居室やソファや畳などで休めるよう(お昼寝)支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んで頂けるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をいつでも職員が閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった場合には、連絡ノートを活用し職員全員で共有するとともに、経過観察を記録に残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人、ご家族から好きな事、得意な事の情報をもらい、できることを提供しています。(歌や塗り絵や裁縫など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じたドライブ外出を計画して実行したり、ご家族にも協力して頂き、本人の希望が叶うようお出かけできる機会を作っています。	事業所周辺を散歩するほか、玄関前に出での日向ぼっこや、畑の芋ほりなども日常に在ります。八幡神社での参拝、金時公園への紅葉ドライブも恒例で、家族を誘ってのいちご狩りは3日に分けて全員参加としています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いという形で、お金をお預かりしており、利用者の希望やその時その方に必要な物を、職員と一緒に買い物に出かけられるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、電話をかけられるよう支援したり、お正月には年賀状を出したり、家族から手紙が届いたら返事を書いていただくよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や飾り、展示物を取り入れた空間作りを心掛けています。	総じて清掃が行き届き、清潔感に溢れています。共用空間は、家庭の「リビングダイニングキッチン」の雰囲気そのままに和やかですが、ユニットを分けている仕切りを開けて両ユニットで体操するときは活気に満ちます	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブル席の他に、リビングにソファを設置し、利用者同士がくつろぎながらお話ができる場を設けたり、2F廊下にもソファを設置し、独りになりたい方の居場所となるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の説明で、可能な限りご自宅で使い慣れた家具などをお持ちいただくよう説明し、可能な限り在宅時の環境と同じような環境となるよう配慮しています。	色鮮やかな洋服が並んだ下部には消耗品が収納されていましたが、綺麗に整理されている様子が印象的でした。またドレスをまとった若かりし頃の写真を、素敵な写真立てに入れて飾ってある居室もあり、個性が際立っています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全面に配慮された環境になっている。居室やトイレには目印となる飾りや張り紙をすることで、利用者の考える力を維持できるような環境づくりに努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291200059		
法人名	社会福祉法人 十字の園		
事業所名	御殿場十字の園グループホーム笑みの里(羽衣ユニット)		
所在地	静岡県御殿場市北久原578-3		
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果市町村受理日	令和8年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2291200059-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑みの里では、グループホームの本旨である「ご利用者様がこれまで行ってきた生活行為を職員の支援を受け、ご利用者同士が助け合いあいながら、家庭的な雰囲気の中で継続して行うことにより、認知症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担軽減に資する」を全うしながらも、プラスして、「笑顔」「家族との時間」「人生支援」をテーマに置き、家族会の定期開催やご家族参加型のイベントを計画実施し、ご利用者様とご家族が過ごせる時間や機会を多く作り、笑みの里とご家族様が共にご利用者様の人生を支援するチームとなって、ご利用者様の笑顔を増やしていくことに力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日本で最初の特別養護老人ホームを誕生させた法人の下、職員育成に長じていることに特長があり、その力を下支えとして地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や職員の専門性をいかした地域貢献の取組みをしています。例えば法人が運営する「介護教室」には当事業所管理者が講座を担当するとか、職員もキャラバンメイトの講師として活躍中です。また、事業所がどのような方針で運営に取組んでいるのかを家族に伝える試みも、本年度から「家族会」としてスタートさせています。実施後、家族からは「担当の〇〇さんへ」というメールが来るようになり、職員との関係性が深まっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に出勤者全員で、「理念」と「行動規範」と「聖書の言葉」を復唱し、共有と実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご利用者様の状況により、散歩に出かけ、近所の方と挨拶を交わしたり、食材の買い出しに地域のスーパーに出かけ、知り合いの方に出かけたり、店員さんと顔なじみの関係性ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとしてキャラバンメイトに参加し講師をしたり、十字の園で実施している介護教室で講師をすることで、地域の方に認知症理解に向けた話などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、活動の報告や事故報告を行いながら、参加者に感想や意見を頂いている。あがった意見などは、職員会議で共有し、日々の活動に反映するよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	訪問調査時や、市が主催する意見交換会などに参加した時に情報の共有を行い関係性を築き、また市の「見守りネットワーク」へと登録し地域の行方不明者の捜査協力もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束の全体研修を通じて、日々行っている行為に対する振り返りを行い、禁止の対象となる行為の共有と理解を行い、「身体拘束ゼロ」に向けた取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な全体研修の中で、「不適切ケア」に着目し、職員が自分の行為を振り返る機会を持ちながら、小さな虐待も見過ごされないよう職員間で共有、話し合いが持たれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は包括支援センター職員から、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての研修会を行ったこともあったが、ここ数年はそのような研修会の機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は対面だけではなく、電話やメールも活用し、丁寧な説明を行うとともに、不安な点や疑問点はお気軽にお問い合わせいただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	こまめな電話やメールなどを活用し、ご家族と利用者に関する情報の共有を行い、ご家族から施設へ口に出して言わずらいこともメールで連絡できる体制にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場を通じて、職員の意見や提案を聞いたり、「提案ノート」を作り、職員からの提案を受付、検討しながら、施設の質の向上に取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に関しては、職員各々の事情を汲み取り、負担にならないような勤務になるよう配慮している。また給与等に関しては、人事評価制度を導入し、頑張る職員が評価され、それが給与等の待遇に反映される仕組みを取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス規準を作成し、各階層別に研修を実施するとともに、資格習得支援など専門知識、技術の向上が図れるよう努めています。個人の力量を見ながら、必要な研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他の事業所との共同会議を定期的に関催し、情報の共有を図り、また同業者の研修会に可能な限り参加したり、実践発表の機会を作り、資質向上を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で本人、家族との面接をして詳細な情報収集を行い、関係サービス事業者からも可能な限り情報を収集し、可能な限り本人、家族の困りごとを解決し、要望などに答えられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階で本人、家族との面接をして詳細な情報収集を行い、関係サービス事業者からも可能な限り情報を収集し、可能な限り本人、家族の困りごとを解決し、要望などに答えられるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前面接を通じて、ご本人、ご家族双方の意向をしっかりと確認し、在宅生活の様子から課題を抽出し、必要な支援が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員は生計を共にする家族だと認識し、介護する方、される方という気持ちを持たずに、互いに支えあうという気持ちで、ご利用者と生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とこまめに情報共有しながら、受診の依頼をしたり、オムツを補充していただいたりして家族にも利用者を支える一員になってもらっている。また年に数回家族会を開き、家族同士が困りごとを語り合える場も設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって馴染みの深い関係の方には、積極的に面会に来ていただいたり、一時外出(ご飯と一緒に食べる)などの働きかけも行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の席次にも配慮し、孤立せず、なおかつ利用者同士が支えあえる、カバーしあえるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移動された方に関しては、定期的に様子を伺いに行きながら、相談員やスタッフと情報交換を行い、協力できることは協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの生活歴を重視しながら、利用者が発した言葉を大切に、可能な限り希望を実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用しているサービス提供事業者から、できるかぎり詳細な情報収集を行い、笑みの里へ入所されてからも、可能な限り同じような生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活記録の中で、医療・特記・気づきの項目があり、利用者をよく観察しながら些細な変化も見逃さずに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と職員とが、職員会議の中で利用者の現状を話し合い、ご家族とも情報共有しながら、支援方法の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個々の生活記録を入力し、特記事項や気づきなどを記載するとともに、職員間で連絡ノートを活用し情報共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な方には、外部の訪問マッサージを利用していただいたり、利用者の要望に対し、ご家族にも協力していただき、日々変化するニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が毎日交代で地域のスーパーマーケットへ買い物に出かけたり、近所の神社へ徒歩でお参りに出かけたがしながら、心身ともに健やかに安全で豊かな暮らしが実現できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診を基本としつつ、ご家族の協力を得ながら、症状によっては、在宅時からのかかりつけ医にも受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の往診時や突発的な体調不良時には往診看護師と連携を取りアドバイスをもらっています。また母体施設の看護師とも連携を取り、早期の段階で受診などの対応を行うよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より協力医療機関の看護師やMSWと情報交換を行い、急変時など速やかに対応できるように努めるとともに、退院時に関しても可能な限り早期で受け入れができるよう柔軟な対応を心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化した場合の対応を説明し、入所中もご利用者の状態変化に応じて、その都度ご家族に説明を行うとともに、母体施設である特養とも連携を図りながら、利用者の居場所を含めた支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修(実技を含む)を行うことで、事業所全体のスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、災害時に的確な行動をとることができるよう努めている。また運営推進会議の場などで、地域の民生委員さんなどに災害発生時の協力体制依頼を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者に対し、常に尊敬の念を持ち、自尊心を傷つけないよう、丁寧な言葉かけを行うよう、職員全員が心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が思いや希望を表に出せるよう関係性を築き、小さなことでも、職員の押し付けにならないよう、利用者が選択できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して無理強いはいしていないが、共同生活なのでどうしても利用者個々のペースが優先できない場面もあります。しかしできる限り利用者の希望を聞き、それに沿った生活ができるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗顔、整髪は利用者全員が行うよう支援し、おしゃれに関しても、その方に似合う衣類を自己選択できるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を利用者と一緒に考えたり、調理や片付けもその方の能力に応じて、できることは行って頂き、職員と利用者が一緒に作り上げる食事になるよう支援しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分摂取量を記録し、職員間で共有するとともに、個々の状況に応じて補助食品などを提供し、不足分を補えるよう支援している。また、可能な限りその方に適した食事形態で召し上がって頂ける様努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事を美味しく安全に召し上がっていただけるよう、食前には口腔体操を行うとともに、歯科医師・歯科衛生士と連携を取り、個々の口腔内の状況に応じた支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、定時で誘導したり、トイレのサインを見逃さないように心がけている。またその方にあったパッドを使用するように、その都度職員間で検討を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を基本とし、運動や食物繊維も取り入れながら、可能な限り自然排便がもよおせるよう支援を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	完全にご希望に沿うことは難しいが、週に2～3回入浴ができるよう支援しています。また便失禁などで汚れた場合は時間外でも入浴したり、入浴拒否がみられた場合などは、時間をずらすなど柔軟な対応を心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には居室やソファや畳などで休めるよう(お昼寝)支援するとともに、照明や雑音などにも配慮し、ゆっくり休んで頂けるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報をいつでも職員が閲覧できるようにしている。また、薬の変更や追加があった場合には、連絡ノートを活用し職員全員で共有するとともに、経過観察を記録に残すようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人、ご家族から好きな事、得意な事の情報をお願い、できることを提供しています。(歌や塗り絵や裁縫など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じたドライブ外出を計画して実行したり、ご家族にも協力して頂き、本人の希望が叶うようお出かけできる機会を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いという形で、お金をお預かりしており、利用者の希望やその時その方に必要な物を、職員と一緒に買い物に出かけられるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、電話をかけられるよう支援したり、お正月には年賀状を出したり、家族から手紙が届いたら返事を書いていただくよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔に保つよう努めるとともに、整理整頓、温度湿度調整にも気を配り、季節の花や飾り、展示物を取り入れた空間作りを心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用テーブル席の他に、リビングにソファを設置し、利用者同士がくつろぎながらお話ができる場を設けたり、2F廊下にもソファを設置し、独りになりたい方の居場所となるような環境作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の説明で、可能な限りご自宅で使い慣れた家具などをお持ちいただくよう説明し、可能な限り在宅時の環境と同じような環境になるよう配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで安全面に配慮された環境になっている。居室やトイレには目印となる飾りや張り紙をすることで、利用者の考える力を維持できるような環境づくりに努めています。		